

はしがき

言語学会第 157 回大会予稿集をお届けします。本大会は 156 回大会に続き、言語学会創立 80 周年を記念する大会で、シンポジウムでは「新村出初代会長から 80 年——言語学はいま？そしてこれから？」と題して、フィールド言語学、歴史比較言語学、言語理論の立場から言語学会初代会長新村出先生の言語研究、言語学会とのかかわりを議論します。

本大会も多くの応募があり、応募総数 108 件（口頭発表 96 件、ポスター発表 8 件、ワークショップ 4 件）に対し、採択数 64 件（口頭発表 56 件、ポスター発表 4 件、ワークショップ 4 件）でした。発表はバラエティーに富んでおり、日本語共通語、方言、琉球諸語をはじめ、20 以上の内外の諸言語に関する様々な言語現象が扱われています。理論関係の発表も音声・音韻、意味論、統語論、語用論と多岐にわたっており、理論的・実験的な枠組みで日本語や英語以外の言語を扱うものも増えています。ワークショップも窪菌前会長はじめ学会の重鎮による企画となっています。ポスター発表は 4 件です。言語学会はこれまであまりポスター発表が多くないのですが、ポスターは実験や理論的一般化に至る前の現象の紹介などの発表にはとても向いており、アドバイスを受けたり、議論を深めたりするにはよい発表形式であると言えます。発表賞はポスター発表にも適用されますので、これからはポスター発表への応募もよろしく願います。

今大会も予稿集は印刷せず pdf の形で学会ホームページに掲載されます。大会までにダウンロードしておくようお願いいたします。事前にダウンロードしておかれるか、ご自分で印刷してお持ちになるようお願いいたします。会場では電波の状況で wifi などが利用しにくいことも考えられますので、前もってのダウンロードをお勧めします。

今大会の準備はかなり前から、80 周年記念行事の一環として行われており、大会実行委員長の吉田和彦先生は 80 周年記念ワーキンググループの代表としても大変な労力を費やしてこられました。吉田先生はじめワーキンググループの皆さま、大会実行委員の皆さま、山越大会運営委員長を中心として、発表の選考、プログラムの作成をしてくださった大会運営委員の皆さま、当日司会を担当してくださる先生方、選考・審査にあられた発表賞選考部会および審査員の皆様に感謝いたします。

今回は、2019 年 6 月 22 日・23 日一橋大学で行われる予定です。奮ってご参加ください。

2018 年 10 月
日本言語学会会長 田窪行則